



我庭や 菊香かほりし 風の詩

松本写伯

## 四季風韻 (拾壺)

撮影 松本富美雄

### 目次

- リレートーク「我が家で暮らしたワンコとニャンコの話」  
天野眞智子 2
- 「好間の炭鉱と朝鮮人強制動員の跡を訪問して」(二)  
平和を語る集い・勿来九条の会 4
- 福島県九条の会活動者交流集会 8
- 憲法9条は世界遺産 古賀誠氏が講演 11
- 出版案内 ○編集後記 12

## リレートーク

### 我が家で暮らしたワンコとニャンコの話

勿来町 天野眞智子

ワンコ第一号は長女がまだ幼稚園生の頃、近所の小学生3名程が拾って来た子犬を親に内緒でエサをあげ始めた。ある日台風が来て隠しきれなくなり、うちの隣の犬好きの奥さんに助けを求めたが結局は我が家に収まることになってしまった。その子は全身ほぼ真っ黒で「ビビ」と名付けられた。とても賢い子で小さなボールでキャッチボールをして遊び、砂浜では投げられた木の枝などを海に入ってまで取って戻り、散歩の時はピタリと横について決して私たちの前は歩かず、きちんとアイコンタクトをとっていた。タライに寝そべって水遊びをし、赤ちゃんが泣くと心配そうな顔をする優しい子だったが、フィラリアにかかり5年の命だった。

第二号は小学校に捨てられていた茶色のワンコで先生が「貰い手がなければ保健所に連れてゆく」と言ったらしく娘がたまらず連れ帰ってしまった。これがどうにもならない子で「お手」と「お座り」位は覚えたが、落ち着きがなくよく吠えた。朝刊配達のおジサンが毎朝せんべいを投げつけてから新聞を入れた位だから、そのうるさは想像できるかと思う。名前はチビのままだった。

第3号は家の裏に住んでいる一人暮らしのおジサンが入院することになり少しの間預かって貰えないか？ということだったのに、退院して



も迎えにこず「せっかくだから天野さんで育ててくれませんか」と。え？シーズーなのに外に繋がれ毛は汚れて見るからにモップのような風体で、ストレスからか「かみぐせ」が

あり、何人もの人がかまれたが、うちに来てキレイにされて穏やかになった。この「サスケ」はだれもいない時に何故か鎖がはずれて脱走し、車にひかれてしまった。

第4号はこれまた訳あって飼えなくなってしまった人からの依頼だった。私はこりていたが子ども達のたつての願いで引き取った。「バブルス」は2年位小学生の男の子が育てていてお菓子などを食べていたらしくエサはもちろんの事、なつかせるにもひと苦労だったが、言葉もよく理解し芸達者なとても賢い子に育ってくれた。名前を呼ぶと「ワン」と手を挙げて応え「ジャンケンポン」と言うところも手を出す。「だるまさんがころんだ」の遊びもできた。早くに緑内障を患い、目がみえなくなってしまうがなんでもわかっていて不自由なく暮らし最後は紙オムツの世話になるまで私たちをいやしてくれた。

そしてニャンコ、次女が小名浜の公園で見つけ連れ帰った。三毛猫の「はな」。目がキリッとして毛づやが良くスマートで見た目は可愛いが気性が激しいヤツ。ずい分と障子を破かれ、サッシを開けて脱走をし、押し入れも天袋もガリガリにされカーテンも登って糸を出された。自分からだっこをせがんだり膝に乗ったりしたが最後には必ずかみつけられた。いつか全力で庭をかけ回っていて娘達から「ヒョウの皮をかくしもった三毛ネコ」と呼ばれていた。何かと私の天敵のような子だったが私の布団で眠り私の相手となってくれ19年間過ごしてくれた。

振り返ればみんな訳ありで我が家に来た子ばかり。

それぞれの子たちと一緒に娘達も成長した。

みんなうちに来て幸せだったのかなあと思  
うと今でも涙が出そうになる。



## **戦跡訪問** 好間の炭鉱と朝鮮人強制動員の跡を訪問して（二）

平和を語る集い 勿来九条の会

二回目の好間の炭鉱跡訪問は良く晴れた7月の太陽の下で行われた。参加者は少なかったが有意義な半日だった。今回は主に朝鮮人の強制連行の足跡をたどることになった。

### 〈鬼越専用軌道跡とトンネル〉

最初に途中で訪問したのは敷設以来 60 年間以上好間の炭鉱から内郷の駅まで石炭を運び続けた専用鉄道の軌道と「鬼越のトンネル」である。高坂団地の前の鉄道に沿った道路を好間バイパスの手前から山手に入るとすぐ小高い軌道跡にぶつかる。薄暗い山に向うと見事なレンガ造りのトンネルが目に入る。トンネルの幅は 5m以上あろうか。トンネルの向こう側にぽっかり空いた景色が見える。線路は山を超えて好間に続く。」49 号線のバイパスがほぼ軌道跡だという。



### 〈好間炭鉱の鉄橋と古河好間の火力発電所〉

我々はそのまま 49 号線に沿って好間の市街地を通りぬけ、好間川を越え高速のインターの手前で左に折れると好間川の堤防の上に大きな二棟の建造物が目に付く。大正期には採炭の動力が蒸気から電力へ転換したが、大正 6 年に他鉱に先駆けて造られた好間炭鉱の火力発電所であったところである。これより 3 年遅れて磐城炭鉱は平に、入山が湯本の駅前に火力発電所を作ったのは昭和 13 年のことである。

巨大な三本の煙突はなくなっているが年を経た建物の存在感が伝わってくる。今は古河電子の工場に転用されている。



堤防に上がり川を見ると北好間からの炭砒専用軌道の「橋げた」が見えた。これは当時の姿をそのままとどめたレンガ造の鉄橋で、上には赤くさびた鉄の線路が眺められる。

### 〈古河好間炭鉱と小館〉

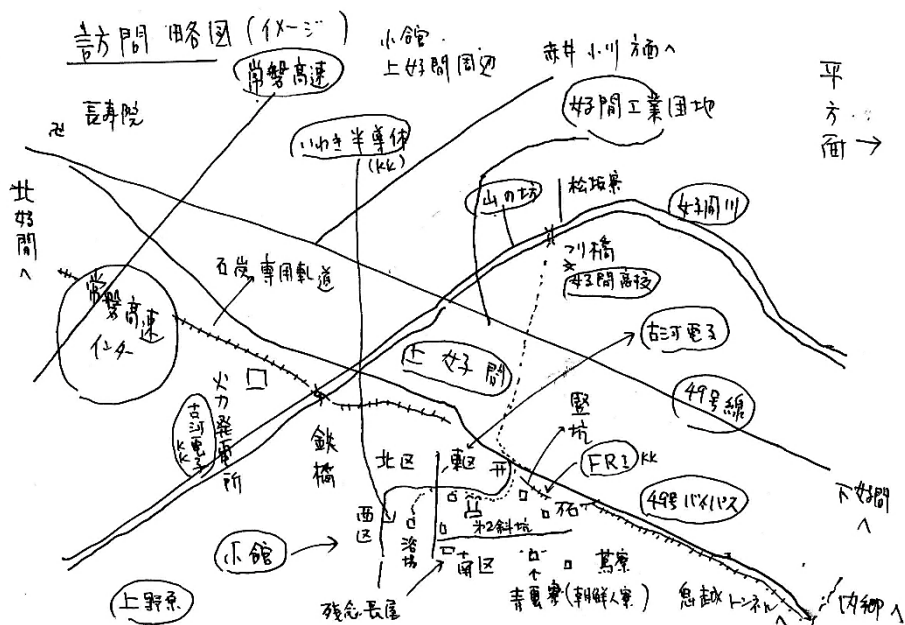
我々は49号線バイパスを引返し、この炭鉱の象徴ともなる堅坑と選炭所そして石炭を貨車へ積みこむ施設である「万石(まんごく)」のあったところにつく。今は石炭採掘のノウハウを生かした建設プラント関係の会社FRIが線路跡の敷地に立っている。そこから右に曲がりながらの炭住や事務所など炭鉱施設のあった館の上に登っていく。うっそうと茂った森の熊野神社を右手にみて前回訪問の「産業戦士像」のあった駐車場につく。そこには閉山の跡を継いだ「いわき興産」の事務所があった。古河電子工場、いわき半導体工場などが続く。すでに昔の面影は跡形もない。当時あたりには様々な行事が行われた古河会館、多くの負傷者を受け犠牲者を見送った診療所や炭鉱住宅があり「東区・北区・西区・南区」へと続いていた。鉱夫長屋には集会所や共同浴場、購買部、武道館、プール、グラウンドなど生活の場があった。さあここで何があったか、地図や残された記憶を基に再現してみよう。

### 〈戦時中に動員された朝鮮人や連合軍捕虜について〉

戦争中は兵士として「お父さん(召集)兵」まで含め直接戦場に「徴兵」されたのは800万人で国民徴兵の限度の1割に達していた。そのため「飛行機1機に石炭100トン」と言われ銃後を支えた「産業戦士」が不足した。2年間の義務労働である「徴用者」600万人のほかに「短期」と言われた「国民報国協力令」による3か月以下の「勤労報国隊」「女子挺身隊」や朝鮮人や捕虜まで動員された(約650万人に上る)。

常磐炭田では戦争中最も多い時(1944年12月)には日本人約1万4000人、朝鮮人約7000人、連合軍捕虜570人である。この時古河好間炭鉱では日本人約3400人、朝鮮人約1000人、連合軍捕虜194人である。朝鮮人は「国家総動員法」の下の1939年に作られた「労務動員計画」で動員されはじめ、期間は徴用と同じ2年間である。

朝鮮人の場合は日本人と違い言葉も習慣も違う「外地」から強制的に連れてこられた。また危険の多い炭鉱や土木現場で、逃亡者へのリンチなど働かせるために暴力が常用された。さらに賃金の貯蓄強制、送金管理など日本人にはない差別があった。特に事故による死亡率が高かった。常磐炭鉱の災害原簿の比較をすると日本人の4倍の死亡率が記録されている。そこで動員された朝鮮人たちは絶えず「逃亡」し、数万人に上る「集団暴力事件」や怠業などの抵抗を繰り返した。古河好間炭鉱で起こった「集団暴行事件」と「連合軍捕虜」の実態については紙面の都合で次回に譲ることにした。



## 〈小館の青雲寮・朝鮮人寮・捕虜収容所の跡を訪ね〉

「集団暴力事件」の舞台となった西区を後に、南区長屋最南端部にあった朝鮮人寮跡を訪ねる。ここはこの後「連合軍捕虜の収容所」となり板塀で囲まれることとなった。もともとは青年男子寮の「青雲寮」であり、真ん中に通路と二段ベッドの飯場風の建物が2棟ほどあったという。二階建ての女子寮・蔦(つた)寮はさらにその先にあった。その下は引込み線や万石も見える丘陵の先端にあたる。閉山後は古河機械金属のいわき鋳造所があり、コンクリートの一部が残っている。その脇にあたる。

## 〈松阪・山ノ坊へ〉 残る共同風呂の建物の一部

その後、川を越えて松阪・山ノ坊の朝鮮人寮を訪ねた。ここには多い時には400人近い朝鮮人が住んでいた。家族呼び寄せ後死亡した父を持つ安銀子氏や友人の孫山東氏も写真にある共同浴場を利用したに違いない。松阪の方から見た鉦夫たちが通った吊り橋跡。再建するのか工事が始まっていた。



正午も過ぎたので小館の産業戦士像の下の駐車場に帰り、涼しい木陰でキャンプ用のテーブル付きの腰掛に座って美味しい昼食を楽しんだ。

## 福島県九条の会活動者交流集会

福島県九条の会活動者交流集会が2023年7月23日二本松市福祉センターで行われました。冒頭、会長の今野順夫さんが開会の挨拶をしました。それを要約し掲載します。(文責榎田)

今日は県内各地で九条の会で活躍されている方々に集まっていただきました。ありがとうございます。

福島県九条の会は2004年の6月に、全国の九条の会の呼びかけに呼応して、2004年5月4日に設立されました。発足以来、全県的な大規模な集会の為の講演会を開き、更に憲法塾を開催する各地の九条の会の支援、「日本の青空」の映画（憲法学者鈴木安蔵の活動など）の上映、ブックレットの出版などをおこなってきました。

発足以来県九条の会代表を務めてきました吉原先生が昨年1月に亡くなりました。吉原先生に対して改めて感謝したく思います。また意思を受け継いで、県内の九条の会運動が大いに発展してゆくようにしたいと思っています。

九条をめぐる情勢ということでは、さまざまな困難に直面しております。特に昨年11月のロシアによるウクライナ侵攻を契機として世界情勢が激変しました。“平和を守るには軍事力”という考えが強くなりました。安倍政権、菅政権の後を継いだ岸田政権は「敵基地攻撃を行う能力」を整備する大軍拡を進めるということです。今までの政権は日本の憲法下では「専守防衛」と言ってきたわけですが、これをかなぐり捨てるものです。敵基地攻撃能力というのは、アメリカ大統領のバイデ





ンより3回にわたり求められてきたことが最近明らかになりました。日本を対中国のアメリカ軍事戦略の最前線にするものです。

更に5月に行われたG7主要国の広島サミットでは核兵器の廃絶が期待されていましたが、92ヶ国が署名した国連の核廃絶条約には全く触れることなく、核抑止力を平然と称えました。九条の改憲もアメリカの要求から始まってきたものです。

福島県といのは、歴史的にみますと、憲法と縁の深い土地柄です。帝国議会をつくる過程で、自由民権運動がかかわった、「福島事件」。これは1882年に県令に着任した三島通庸が道路開削に当たり、住民を無償で動員し、応じなければ罰金を取るというものでした。これに対する農民の闘いです。高知県に「自由民権記念館」が在ります。そこに自由民権派は東の三春、西の土佐」とありました。



戦後最大の冤罪事件といわれる松川事件。1949年8月16日に起こった列車転覆事件です。1963年9月11日に全員無罪判決が下されました。これは14年に及ぶ市民労働者の闘いによって勝ち取ったものです。

会津に矢部喜好（やべきよし）さんという人がおりました。牧師さんです。日露戦争の時日本初の「良心的兵役拒否」をしました。

戦後になりまして、現憲法を作成する際、民間憲法草案を起草した鈴木安蔵さん。この草案はGHQ（占領軍）の草案に大きな影響を与えました。出身地の小高町を中心に「鈴木安蔵を称える会」が結成されています。

白河出身の鈴木義男。憲法を作る過程で平和とか生存権を訴えました。最近「平和憲法を作った男鈴木義男」という本が出ました。

結婚しても職場に在籍する。今では当たり前のことですが、当時は結婚したら退職する約束があるから退職する。これを打ち破ったのはいわきの鈴木節子（スズキセツコ）さんです。

現在県下には約 104 の九条の会があります。活動状況は活発な所休眠状態のところなど様々です。一つ一つの九条の会が大きく活動を展開して、憲法改定を阻止し、憲法の平和理念を守りぬかねばなりません。

九条ニュースを出していると思いますが、読んでもらえるかどうかは、行数などもあります。何丁目の会員の誰々が書いたものであれば、親しみと連帯感が強まると思います。県九条の会発足の時の呼びかけ人は 35 人ですが、革新的な人ばかりではなく保守の人もあります。「九条を守る」という一点で呼びかけてゆく、選挙の時は別々でも、九条は護るという点で共に行動する。是非広く会員を募って欲しいです。

九条改憲阻止の署名ですが、中々大変です。私も署名やビラまきをしますが、なかなかビラを受け取ってくれない。署名もしてくれない。署名時にいろいろ話すのですが、ウクライナ侵攻以来、九条では日本の平和を守れないのではないかとまじめに考えている人もいます。署名をしてくれた人、ビラを受け取ってくれた人も会員に迎え入れ、活動に参加してもらおう。そうなれば運動は拡大すると思います。



それから今憲法九条を保持している日本国民にノーベル平和賞の受賞を求める署名が実施されています。何れにせよ県下 100 余の九条の会が、個別的な組織の強化に努めてくれるようお願いして終わります。

## 「憲法9条は世界遺産」元自民党幹事長 古賀誠氏が講演

5月14日、市文化センターで元自民党幹事長古賀誠氏の講演会が開かれました。古賀誠氏は1980年から2012年まで10期にわたり自民党の衆議院議員として活動し、数々の要職を務め、日本（戦没者）遺族会会長、靖国神社総代も歴任し、右派という印象がありますが、演題が「憲法9条は世界遺産」というのですから、なぜ？と興味深く参加しました。要旨を紹介します。



古賀氏は2歳の時に父親が出征して戦死し、母親が早朝からの行商で生計をたて、育ててくれたこと、多くの方々とふれあう中で「戦争がどれほど多くの命を奪ったのか、どれだけ多くの不幸な悲しい人たちをつくったのか」「戦争未亡人を再び生み出さない平和な国をつくりあげていくことが政治だろうと肝に命じ」「我が国が永久に平和であるために努力すること」が一番大事な仕事になったと言います。

現在の改憲論議について「一番腹立たしく憲法にも違反すると思うのは、集団的自衛権の解釈変更の問題です。集団的自衛権の行使は憲法違反、日本は専守防衛でやっていくというのが、戦後の内閣が維持し、国民も支持してきたことなのに、閣議だけで見直しを決めてしまった。日本の安全にとって極めて危険な、専守防衛を乗り越えて戦争ができる方向に進んでしまった。」「その上で憲法改正をやられたら、戦争をしないという九条によって宣言した誓いはどうなるのか。戦争をしないという根っこだけは守っておかなければいけない。」「一項二項とも残して自衛隊のことを書くと言うが、憲法九条改正につながることは針の穴程度でもやってはダメ」と強調しました。

自民党＝憲法九条改憲論者ではない、自民党を支持する人でも「憲法九条を護ろう」と考える人は多くいる。肩を組んで平和憲法をまもる運動を大きく広げよう、と認識を新たにした講演会でした。（文責 宮川正）

## 勿来九条の会講演会の昨年の講演者 花岡蔚さんが

### **新版**「自衛隊も米軍も、日本にはいない」を発売



サキソホーンを片手に、「災害救助即応隊構想で恒久平和を実現しよう」と講演活動が続けている花岡蔚（はなおかしげる）さんが、ロシアのウクライナ侵攻後の情勢の変化も織り込んだ著書「自衛隊も米軍も、日本にはいない」の新版を発行しました。

本体価格 1500 円、花伝社の発行です。

#### **編集後記**

福島第一原発の処理水の放流問題は環境問題だけではなく民主主義の問題でもあります。許せません。

民主主義の基本は正確な情報の提供、国民の意見の尊重、約束を守ることにあると思います。

東京電力は第一原発敷地内に保管していた汚染水を処理し放流を始めました。巷間言われているように政府と東京電力が漁民との約束「関係者の理解なく如何なる処分も行わない」を破る行いでした。又東京電力は過去度々情報隠しを繰り返しました。

東京電力の情報に惑わされず、正確性を確かめる作業が大事です。(S)

#### 勿来九条の会事務局

榎田正行	65-6973	斉藤春光	63-4005	龍田光司	63-4762
蛭田 睦	56-2143	宮川 正	63-4082		